

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

鳥取県生涯学習情報誌

生涯学習とっとり
vol.
190
2020.9
学びから行動へ、行動から学びへの循環



二部梁山泊と森のようちえん「michikusa」がコラボし、秋祭りを開催（昨年度）

特集

子どもたちと 地域の未来のために種をまく

二部梁山泊

- 04 私たちの活動をご紹介します！
久松山を考える会（鳥取市）
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報
（9・10月）
- 19 歴史的建造物の紹介（倉吉編）
- 21 鳥取県立生涯学習センター（お知らせ）
- 23 みてみて♪こんなしとするで～



伯耆町立二部公民館長の田村茂樹さんと
二部梁山泊代表の梶間晋二郎さん(写真右)

子どもたちと地域の未来のために種をまく

にぶりょうざんぱく ～二部梁山泊～

いろいろなアイデアを出しながら、伯耆町二部地区の活性化のために活動する「二部梁山泊」。地域のためにがんばるお父さんたちの活動について、代表の梶間晋二郎さんにお話を伺いました。

立ち上がるお父さんたち

「二部梁山泊」は、伯耆町立二部小学校のPTA活動を発端に保護者の有志が集まり、平成23年7月に結成されました。

もともとのきっかけは小学校の統廃合問題。合併によって、この地域に子どもたちの声が聞こえなくなってしまうのでは・・・という危機感がありました。合併は行われませんでした。自分たちの地域について真剣に考えるようになったといいます。「過疎の問題が一番大きかったですね」と話す梶間さん。「二部で生まれ育った子どもたちが都会に出ていくのは仕方がない。けれど、二部で育ったということに誇りを持ってほしくて。そうすれば、いつかまた帰ってきて、地元を盛り上げてくれるんじゃないかっていう思いもあって。子どもたちを巻き込んだイベントを企画し父親である自分たちも楽しむ、本当にやりたいことをやろう!と思ったんです」と。

子どもたちが楽しい!と思う活動を

時には、子どもたちが考えた企画を実現したことも。小学校の学習発表会で二部地区が取り上げられたとき、梶間さんたちと子どもたちで「これからの二部地区」について討論会をしました。そのとき子どもたちから出た「地元特産品のシイタケを使った料理を作りたい」「二部地区のよさが伝わる写真コンテストをしたい」という意見をもとに、実際にシイタケ餃子を作って食べたり、小学校と連携して写真コンテストを実施したりしました。子どもたちの発想を大事にして、その実現にむけて大人と一緒に取り組む活動は、二部地区の活性化にもつながっています。

10月にはハロウィン、2月には節分イベントなど、季節に合わせた楽しい行事が催されます。「大人の自分たちが一番楽しんでいるかもしれません」と梶間さんは笑顔で話します。



ハロウィンに向けて観賞用カボチャの苗を公民館が手配し、活動に賛同してくださる地域の方に配って育ててもらいます。大きく育ったカボチャを子どもたちと一緒にくり抜き、ハロウィンのおぼけカボチャとして地区内に飾ります。カルタとり大会で使うカルタは、子どもたちと二部地区のまち歩きをして作ったもの。みんなで地区のいいところを探して写真を撮り、地図上に写真を並べていく作業をとおして、地区の良さを再確認できたそうです。節分は、メンバーが奇抜なメイクをして鬼になりきり、子どものいる家を突撃訪問して子どもたちを驚かせます。その他、地域の祭り「たたらまつり」にも毎年出店して盛り上がります。

観賞用カボチャの苗。スクスクと生長中（取材時の6月）



みんなで巨大カボチャをくり抜きます



二部の魅力がいっぱいつまった手作りカルタ



カボチャは夜に点灯され、二部地区内に飾られます



他の団体ともコラボ

「活動をする上で地区内の人との出会いがあることも魅力」と話す梶間さん。地元の食材で特産品を作る「つくしの会」や、自然の中で保育を行う森のようちえん「michikusa」と一緒に活動することもあります。

これまで、「つくしの会」に協力してもらい、2月の節分イベントでどれだけ長い恵方巻ができるかチャレンジしたり、「michikusa」が主催する秋祭りや園の行事に参加し、保護者に二部地区について紹介してきました。ハロウィンのイベントも毎年一緒に開催しています。「米子市など地区外から来られる保護者も多く、二部地区をすごく気に入ってくださる方もいてとてもうれしいです」と話す梶間さん。さまざまな団体とコラボすることで活動の幅が広がっています。

どれだけ長い恵方巻ができるかチャレンジ！



節分イベントで鬼が子どものいる家を突撃訪問！



地域の方の協力があるからこそ

「公民館や小学校、michikusa、つくしの会など、地域の方の協力のおかげでとても活動がしやすいです。地域の皆さんに本当に感謝しています」と梶間さん。しかし、活動を始めたころは若い人と年配の人で意見が違い、時にはぶつかりあったことも。「最終的には、二部地区をよくしたいという気持ちは一緒だということに気づいて。自分自身も年を重ね、年配の方の意見にも柔軟に対応できるようになりました」と続けます。

地域の方の協力も得ながら、子どもたちのために地域の未来を考える「二部梁山泊」。活動をとおしてメンバーと子どもたちが、名前呼び合う仲間になったことも大きな喜びとなっています。この活動がこれからも続き、子どもたちの心に「ふるさと二部」がずっと残ることを願います。

森のようちえん「michikusa」さんから、二部梁山泊へのメッセージ



"大人が全力で楽しむ"それが二部梁山泊さんの一番の魅力だと感じています。そんな大人たちの背中をmichikusaの子どもたちもいつも見せてもらっています。これからも一緒に楽しいことをたくさん出来れば嬉しいです。

二部公民館長 田村茂樹さん

二部梁山泊は、公民館祭や生涯学習事業、ハロウィンイベント等の世代間交流事業へ積極的に参加され、地域では欠かすことのできない組織です。

この活動が長く引き継がれ、公民館も一緒に地域づくりに取り組んでいけたら良いとおもいます。

二部地区ってどんなところ？

魅力いっぱい！

歴史と文化があふれる二部地区

写真提供：二部地区活性化推進機構



■ 出雲街道（足羽家）江戸時代の参勤交代路でにぎわい、その名残が数多く残る。

たたら製鉄の炉跡や鍛冶場跡など多くの遺跡が残るほか、国の「どぶろく特区」にも認定されている。

二部梁山泊の由来

いろいろな技能を持った人の集まりという意味で、水滸伝という中国の物語にちなんでいます。実際、メンバー8名の職業もさまざま。地域のために何ができるのか知恵をしぼって活動しています。



michikusaさんとのコラボでイベントを開催

連絡先

二部梁山泊

フェイスブックはこちら

<https://www.facebook.com/niburyouzanpaku/>



